

池田市総合計画審議会 地域生活環境・まちづくり部会③ 議事要旨

日 時：令和3年12月22日（水）18：00～20：30

場 所：池田市役所 3階 議会会議室

出席者：(外部委員)

大島部会長

板谷委員、喜多村委員、栗田委員、ゲレンチェール委員、近藤委員、庄田委員、
多田委員（50音順）

(内部委員)

岡田委員、石田委員

<事務局>

総合政策部 水越、SDGs政策企画課 岩下、藤本、川本

<関係部>

市長公室 西山、市民活力部 高木、まちづくり推進部 根津、都市整備部 西村、
消防本部 金井、上下水道部 吉村

傍聴者：0名

1. 開 会

事務局より出席者の紹介、開催方法について確認があった。

2. 案 件

(1)「価値を高め発信するまち」及び「地球環境と調和する安全・安心なまち」 に関する主要意見等について

事務局より資料について説明が行われた後、次のように質疑・意見交換が行われた。

<部会長>

この部会で扱う2本の大きな柱「価値を高め発信するまち」と「地球環境と調和する安全・安心なまち」において、皆様からご意見をいただいた内容、活発に議論いただいた結果はここに出ていると思う。それを受けて事務局で対応方針案を示していただいている。

○印が会議中にお話があった内容。●印はその場で明確な回答はなかったが、持ち帰って方針案を示していただいた内容となっている。全てご説明いただければ理解が深まるかもしれないが、限られた時間の中で会議の運営をしているので、私の方で全般に関わるような大きなテーマを幾つかピックアップし、そのお話を皆様にしていただきたい。併せて個別の話については、時間の許す範囲で皆様からご質問やご意見をいただき、方針案にどう反映していくかを詰めていければと思う。

部会長として選ばせていただきたいと思ったのは、大きくは二点ある。一つは「価値を高め発信するまち」、いわゆるシティプロモーションの話である。皆様から池田市の魅力発信とファンの創出ということで、前回集中的にお話しをいただき多くの項目について発言いただいた。それらへの対応方針案を事後という形で、事務局にお考えいただいた。

これは今回の総合計画審議会の中で極めて重要な戦略的な方針であり、この部会に任された大きなテーマであると思う。このテーマについて、もう少し皆様から突っ込んだご意見をいただくような場を企画・設定させていただきたいと思うがよろしいか。

(意見等なし)

他のテーマについてもまた後ほど考えていきたいと思う。よろしければこのテーマについて、委員の皆様からご意見をいただいた内容に対して事後でご議論いただいた回答があると思うので、事務局から少し補足説明をいただきたい。

<事務局>

池田市のシティプロモーションについて、広報・シティプロモーション課で担当するので、私からご説明申し上げます。

今現在、我々はシティプロモーションの方針策定に関するアンケート調査を実施したところである。ウェブアンケート調査、転出者、転入者へのアンケート、職員アンケートである。

その中で大体共通しているのが、池田市の魅力を感じている点ということで、交通の利便性の高さ、治安の良さ、自然環境の良さであり、市民意識調査と内容的にはほぼ同じではないかと考えている。

また満足度に関しても、ウェブアンケートで485名の方に伺ったが、そのまま住み続けたいという方が88.7%、転出者のアンケートが63人だが、また機会があれば池田市に住みたいという人が64.6%おられた。居住経験者にとって、池田市は好評ではないかと考えている。

このアンケート結果を基にシティプロモーションについては、子育て支援施策の充実や、自然環境、買い物などの日常生活の利便性や住宅の条件、このようなものがこれから考えていかなければならない課題ではないかと考えている。

全体からも委員の先生方からも色々教えていただいているが、アンケートの結果を基に池田市の強みや弱みを見極めながら効果的にPRするための方向性、ターゲットや内容を定めていきたいと考えている。ターゲットの設定案としては、市外・市内の両方向へのプロモーション方針を設定する中で、さらにターゲットごとのアプローチ方針を今後設定していく必要があるのではないかと考えている。例えば、市内・市外の子育て世代、また市内の高齢者世帯向けという形で考えていきたいと思っている。

シティプロモーションの基本方針は、池田市のファンを増やしていきたいと考えているので、池田市の魅力を発信し、池田市を知ってファンになってもらい池田市の活性化、魅力の向上に一役買ってもらいたいということを目的にしたい。

<部会長>

アンケート結果と新たな調査も受けて、今まで考えていた方針、考え方と大きな違いはなかったということで、その方針の方向性に沿って回答案等も作成していただいているのではないかと思う。

それではこの「シティプロモーションの展開」について、全て読みきれないとは思いますが、皆様からそれぞれの内容について、聞いておきたいことや確認しておきたいこと、こうではないかというご意見があればそれぞれお願いしたい。

ターゲットの話とかはどこかに明示されているのか。

<事務局>

ターゲットに関しては特に明記はしていない。

考え方としては委員から、個々で市外・市内、ターゲットごとのアプローチが必要ではないかという意見を聞いていたので、それを参考にさせていただいた。

<部会長>

分けてプロモーションしていくが、重点的にターゲットにする層とか、そういうことは今のところはまだ考えられていないということか。

<事務局>

特にまだ具体的には考えていないが、市内の高齢者、若しくは市内の子育て世代、それは中心にやっていきたいと考えている。あともちろん市外の子育て世代も併せてやりたい。

<部会長>

市外は子育て世帯という考え方か。

<事務局>

そのとおりである。

<部会長>

たくさん回答をいただいているので、委員の皆様も読みきれないところがあると思うが、個別の部分でも構わないので、ご質問等も含めてお願いできればと思うがいかがか。

<外部委員>

議論の種まきのつもりで発言するが、以前メールで途中の段階で「まちづくりの進め方」の資料をいただいているが、この「まちづくりの進め方」の前提として、SDGsの「誰一人取り残さない」という理論を大事にしたいというのがあると思う。

これは例えば、安全・安心、危機管理の分野でもそうだと思うが、日頃の教育や福祉の分野でも重要なポイントで、シティプロモーションにおいてもこうしたことを大事にしていること自体もプッシュしていった方が、魅力的なまちとして捉えられるのではないかと

思う。先ほどのご案内いただいたとおり、子育て世代や高齢者の世帯、高齢者の皆様にもしっかりプロモートしていくというのはとても大事な点かと思った。

さらに多様な市民・住民の皆様がいらっしゃるの、誰一人取り残さないようにという部分は、色んな施策にワードとしても入れた方が分かりやすいと思った。

この「まちづくりの進め方」の基本の(2)にあるとおり、「みんなで取り組むまちづくり」と言っているの、やはりプロモーションは住民の皆様と一緒にやりたいということを確認に示された方がよい。関係各所の方が責任を持って頑張るということではあると思うが、こここそ市民一丸となって、多様な皆さん誰一人取り残さないようにみんなで取り組むということが明示できそうな気がする。そこがもしかすると薄く読めるのではないかと思った。

<部会長>

後ほどご説明いただき皆様にも議論していただくことになると思うが、「まちづくりの進め方」の中で、誰一人取り残さないSDGsの理念を基本とする重要な考え方が提示され、それが全ての施策に反映されてくることになると思うが、このシティプロモーションについてもそういう考え方を前提にしてはどうかという中で、ターゲットの考え方と住民の方と一緒にプロモーションしていくということを重視してはどうかということだがこの辺りはいかがか。何かどこかで反映しているところはあるか。

<事務局>

SDGsの理念を含めて、町内会のコミュニケーションを図っていく体制づくりをしていきたいと考えている。どこにも載せてはいないが、シティプロモーションを実現するための大事なポイントとしては、町内会のコミュニケーションや継続的に実施できるような体制づくりをしていきたいと考えている。

<外部委員>

そういう町内会など既存の枠組みをうまく活用されると活性化する可能性もある。

前回も色んな産業があるというお話が出た。インターネットで頑張っておられる事業者があると言われていた。そういう主体は、全てシティプロモーションに関わるのではないかと思うので、そういうことを想起させた方がいいと思う。

一方でSNSをたくさん打ち出されているが、やはりご年配の方はなかなかそういうものではリーチできない部分もあると思うし、障害のある方がそうした情報に接触できるのも限らないので、色んな方と一緒にという部分は、このプロモーションの部分にも入れられるならば入れていった方がいいのではないかと思う。

<事務局>

ホームページやSNSによる情報発信のニーズが高まっているとは認識しているが、障害者の方、高齢者の方もいらっしゃるの、広報手段としては広報紙等の紙媒体と両方を兼ね備えてやっていきたいと考えている。

<外部委員>

先ほど部会長がおっしゃった重点化の部分に関して、どれを誰のためにどう頑張るのが読み取りづらいかもしいかなと思った。

広報紙という紙媒体も古くて新しいなど、身近なメディアとしては非常に重要だと思うので、それを大事に使っていきたいということがもう少し伝わるといいかと思う。箇条書きの中に埋もれてしまっているように見えるかもしれない。

<外部委員>

シートの中で教えていただきたいのだが、「シティプロモーションの展開」の「取組の方針」の①の二つ目に、「近隣市町村と連携をとりながら、空港機能を活用したまちづくりを推進する」とあるが、「空港機能を活用したまちづくり」は具体的にどのようなイメージなのか。

<事務局>

空港というのはただ単に飛行機の乗降だけでなく、昨年リニューアルされたこともあって、本当に色々な意味で、さらに人を取り込む機能を強化しているということもある。

近隣の都市が連携することによって、非常にポテンシャルがあり、観光資源としても十分活用できるものだと認識している。そういった周辺地域と連携をして、そこで催しやPRをするなど、そういった形で活用していければと考えている。

<外部委員>

観光ということは関東や九州といった関西以外からの方、若しくはインバウンドをメインと想定されているのか、マイクロツーリズムを想定されているのか。シティプロモーションの発信の仕方は分けた方がいいような気がする。

空港といった場合に、やはりかなり遠くから人を呼ばなくてはいけないので、強いコンテンツを広報力で打ち出す必要がある。池田市には素晴らしい資産がたくさんあるが、一個一個でそこまで強いものがあるのか。関東や東北の人が、池田市に行く目的がそれを目指すのであれば、そのプロモーションのやり方としてもある程度の仕掛け、イメージづくりが必要だと思う。戦略的にはターゲットをどこにするかで違ってくるような気がするが、どこから交流人口としての人を呼び込むのか、少し総花的に両方書かれているので、逆にぼけてしまっている。

<事務局>

確かにターゲットは複数あるように書かれてはいるが、池田市の観光施策としては基本的に一本だと考えている。空港に近く大阪市内からも近い。ものすごく大きな観光資源はないが、自然に恵まれており、カップヌードルミュージアムなどはすごく人気がある。正直1泊、2泊するだけのものはないと思っているが、池田市に少し寄っていただいて、幾つかの観光資源を見てもらい買い物をしてもらうといった形で、インバウンドの方も含め

市外の日本の方にも来てもらう。市民にとってはこれらの多彩な観光資源をPRすることで、池田市の良さの再発見につながっていけばと思っている。

新たな旅のスタイルと言われているワーケーションを今年からトライアルしている。先月北海道のお菓子会社の方が来られて、今年度3回ほど来られる予定になっている。そういった取組を研究中だが、やはり空港に近いというのがメリットになっているので、空港の良さもどんどん出していきたいと思っている。

<外部委員>

空港に近いメリットというのがよく分からない。

<事務局>

空港に交通の便が良いということで、空港から離れているよりは身近に来やすいと感じてもらえるのではないかと思う。

<外部委員>

大阪市内のUSJも空いていけば空港から30分で行ける。そうするとUSJと五月山動物園が競争するというイメージなのか。

<事務局>

決して競争とは思っていない。例えば遠方からUSJに来られた方が、その後神戸に行かれるケースがあると聞いている。次の選択肢に例えばカップヌードルミュージアムを選んでいただければと思っている。

<外部委員>

空港へ戻る途中で寄っていただける場所を目指すということか。

<事務局>

そのとおりである。

そこで2、3か所寄っていただき、飲食にもつながればと思っている。

<外部委員>

実感としてどうなのか。池田市内の観光施設ではカップヌードルミュージアムと動物園がメインで、コロナ前で100万人ぐらいか。

<事務局>

前々年度、コロナ前は90万人を超えている。

<外部委員>

動物園は入場無料なので、お金の落ち方としてはあまりないのではないかと。池田市内にはホテル自体も少ないということを見ると、今ご説明いただいたような、遠くからの方をターゲットにするのであれば、総合計画の中に宿泊施設やそういったものがあつた方が飛びつけるような気がする。

<部会長>

基本的な考え方や観光とのつながり、若しくは空港との関係といったところでの論点を挙げていただいたと思う。それ以外でもどういう方向でプロモーションをしていくのか、オーバーツーリズムとの関係でいえば、オーバーツーリズムにつながらないような、どんな工夫が必要なのかということも、この回答の中に示していただいているが、その辺も含めて委員から何かご意見はないか。

<外部委員>

観光資源はぽつぽつと市内に点在しているという感じで、どうしても点として捉えがちだと思う。例えば、二つ、三つ合わせて、2時間でこんなセットがあるなど、そういう具体的な提示ができれば、行ってみようかという方も出てくるのではないかと。そういう分かりやすいシステムで、点ではなく面的にプロモーションできればいいと思う。

<部会長>

差別化していくためには既存の資源を生かし、それをパッケージ化して点から面にしていくということも戦略として考えられると思う。これに対して何かご意見はないか。

<事務局>

池田市は観光のセールスポイントとして、徒歩20分圏内のまち歩きをこの10年程うたっている。五月山動物園からカップヌードルミュージアム、これが大体徒歩20分圏内で、その間に小林一三記念館や逸翁美術館、少しずれるが商店街もある。その20分程の間に幾つか楽しんでもらえればというのをセールスポイント、セールス的な形にさせていただいている。

<外部委員>

ウォーカブルということで歩いて回れる範囲という話だったが、交通機関が必要なものもあると思う。その際に対象となる観光施設と公共交通がコラボし、お互いのメリットを共有できればと思う。例えばダイハツのミュージアムは歩いていくには難しい。交通機関で池田駅から行けるようなルートを確認できれば、一般の人でも利用できて両方にメリットがあると思う。

<部会長>

打ち出しに活用できるかどうかをご検討いただきたい。

他の委員はいかがか。

<外部委員>

市内外それぞれのアプローチが必要だということで、市内に住んでいる方が住みやすいと思っているところを掘り下げて、どのようにしてより愛着を持っていただくかということ、明記された方がよいという意見があったと思う。そのような内容を盛り込んでいきたいと書かれているが、具体的にどういうことを市内の住民向けに発信するのか。何か具体的に掲載しようと思っているものがあれば教えていただきたい。

<事務局>

先ほど申し上げた高齢者の方、若しくは子育て世代の方という形で、ターゲットに応じて各種媒体を活用したこまめな発信をしていきたいと考えている。

具体的には、例えば市内の高齢者なら健康や介護予防という観点からハイキングや歴史探索の情報提供を行うことを考えていきたい。市内の子育て世代に関しては、自然が強みなので、子連れで楽しめる自然、例えば公園や動物園、その辺りをSNSで流していきたいと考えている。

ある程度絞り込みをきちっと行い、その人たちに対して魅力を発信していく必要性があるのではないかと考えている。

<外部委員>

意外と市民の方も池田市のことを本当に語れるかと言われると、自分自身も自信がない。学校の授業で池田市の歴史を学ぶ機会はあったが10歳の頃でそれ以降はない。自然などは日常に溶け込みすぎて魅力があるという自覚がない。それを再発見させていただけるような機会があるのはとてもよいことだと思う。

<部会長>

千葉県流山市は人口20数万人の街だと思うが、「母になるなら流山」というメッセージを強烈に打ち上げ、大都市を抑えて人口増加数はベスト10に入っている。つくばエクスプレスが都心からつくば市に向けて発しており、沿線に色んな住宅都市がある中でそういう標語でアピールして、そこへ人が集まるような仕組みを作っている。阪急沿線の中で有力な住宅都市が並んでいる構図としては似ていると思う。その中でアピールというか差別化を図っていく意味合いでは、市内の方へもアピールできるし、対外的にも「母になるなら」というキャッチーなイメージでアピールをすることで、実際の効果が期待できる場所もあると思う。そういうめりはりの付いた取組も考えられるのではないかと。総合計画の中でどのように表現するか課題はあると思うが、とてもインパクトがある取組ができるような内容を入れていただくのも一つではないかと、今のやり取りを聞いて感じた。

<外部委員>

部会長のお話のとおりだと思う。

民間の施設を軸に総合計画などで観光施策を考えるのは、少し危険だと思っている。部会長のお話のようなことや、市民協定等で作っていく観光資源をつなぎまち全体の魅力をアップする。そして大阪市内や近隣自治体からいわゆるマイクロツーリズムで遊びに来られる方を増やし定住に結びつけていく、観光から、交流人口から、定住人口へつなげていくという基本的な施策、方向性があることが必要なのではないか。

<事務局>

我々もその辺りが非常に大事ではないかと考えている。具体的に説明しづらいが、狭山市などはストーリー性というか、物語性をうまく組み込んでいっているのではないかと考えている。そのストーリー性をどう発信できるのかというのが、非常に大きな課題であると認識していて、それをすることによって、池田市というまちの空気感や雰囲気伝わっていけば一番良いかと思っているので今後研究していきたいと思う。

<外部委員>

主要意見のところにもあったように、「主な関係課」のところで、広報・シティプロモーション課と空港・観光課がメインとなってされているページなので書き方がそうなると思うが、やはり市民の方々に対してどう情報を伝えるかを考えたときに、誰一人取り残さないために全課横断で取り組んでいく情報発信が必要と感じている。

公共施設を指定管理で運営していて感じるのは、各施設でホームページを持って情報発信をしているが一本化されていない。利用する市民サイドからしたら、広報を見られる方もいるし、インターネット上で情報収集される方もいる。両方共がまとまって見られるものがないという課題がある。これは他の市でも難しいと思うが、例えば広報紙であれば、最初のページ辺りに1か月のカレンダーの形式で主な大きなイベントが書かれているが、子育て世代の方が集まる30分ぐらいの会があるという細かいイベントなどは、中に書いているがカレンダーには反映されておらず、情報を一元的に見られる場所がないという課題をととても感じている。その辺りを何か今後対策として考えているのであれば、これは結構大きな目玉になるのではないか。総合計画にも情報の整理というところで、大変メリットになるのではないかと感じた。

<部会長>

行政情報は提供する側の考え方で提供するケースが多いと思う。確かに用途別というか、むしろ池田市の入り口、ポータルになるような情報の整理の仕方、アクセスの仕方のようなものがあってはどうかということだと思うが、これはどうか。

<事務局>

ホームページはリニューアルしたところで、まだ微妙な修正を行っている。今後も2、3年おきにはリニューアルしていきたいと考えており、市民の方にとって見やすいのが一番大事なところだと思うので、情報の一元化は研究をさせていただければ思っている。

ホームページが見にくいというお声もあるので、その辺りも我々の考えではなく、市民の方の声や他部局と連携をしている中で、我々もシティプロモーション企画をしているという気持ちを持って、各課に働きかけもしながら民間の方の活力も導入しながら考えていきたいと思う。

<外部委員>

ホームページを今後もリニューアルされていくという話だが、ホームページというのはこちらから見に行かないと見られない。若い世代の方たちがT i k T o kで情報を得ているのは、何か一つのところにアクセスすると、自分の欲しい情報が流れてくるからだと思う。

私は普段お店も営んでいるので子育て世代の方と触れる機会も多いが、情報を得られている方はそれほど多くない。池田市はL I N Eもされており、コロナの方が多いときは、いつもコロナの方が増えているのかということで見ている。情報発信ということであれば、そちらから送っていただいた方が皆さんに届くのではないかと。シティプロモーションにしても、行政からアプローチするような発信があれば、色んな方に届くのではないかと感じた。

<部会長>

いわゆるプッシュ型広報という部分だと思う。行政の方もL I N Eでの配信なども増えてきていると思うがいかがか。

<事務局>

今の若い世代の方を見ると、SNSが主流になってきておりホームページはあまり見ないという方が多いと思う。池田市も一応L I N EやF a c e b o o k、T w i t t e r、Instagramとか、色々やってはいるが数がそう伸びないという状況なので、今後シティプロモーションをするのであれば、その辺りも目的をきちっと持って、ターゲットもきちっと絞った上で漫然と流すのではなく、めりはりを付けた上で流していきたいと考えている。

<外部委員>

広報の取組についての提案なのだが、池田市は大学と連携協定などを結んでいて、そういった若い人、大学生の力を使うのはどうかと思う。

例えば広報紙の1ページを大学生に任せてみて、サークルや授業の一環として作ってもらおう。あとはInstagramやY o u T u b eなども学生に任せ、先ほどおっしゃったような、徒歩20分での観光などをY o u T u b eで発信していけたら面白いのではないかと。

<部会長>

新たな媒体を活用して内部広報も含めて若い世代がそれを担うような、そういうことをしてはどうかということなので、その辺も参考にさせていただければと思う。

<外部委員>

重複になるが、空港をシティプロモーションにされているのはアクセスポイントとしての空港ということか。

伊丹空港という名前になっているので、空港イコール池田市というイメージがあまりない。「価値を高め発信するまち」のところでも空港がアピールされているが、あまりぴんと来ていない。市民や周りの市の方がどれぐらいそれを認識されているのかが非常に疑問がある。

<石田委員>

コロナ禍で航空会社も空港も大分困っている。今空港のスマホ化という話がよく出ている。要は飛行機を飛ばすだけではなく、一つの観光地という位置付けで、おそらく空港の方もそういう意識で色んなイベントを打ち出している。飛行機に乗りに行くのではなく遊びに来る、飲食に来るという中で、空港の方も色んなイベントをしているので、伊丹市、池田市で、そのようなイベントの中に入り込みプロモーションを進めていく。空港の在り方が大分変わってきていると思うので、その辺を活用していくというのも一つありえるかと思っている。

<外部委員>

そういうことをする場合は、そこでイベントをすると池田市をアピールできるということ、池田市の土地に空港もあるので、そこにもお金が落とされるということかと思う。

<外部委員>

昔の議員さんとお話をしているときに「伊丹空港」と言うと、「あれは『大阪空港』だ」と怒られた。

おそらく多くの自治体では、どこかと観光がくっつく場合は商業の方が多気がする。これも伺った話で恐縮だが、空港・観光課でその強みがある一方で、商業と観光をつなぐというところが、その機構の問題の中でやや弱くなってしまっている。空港が交通なのか観光なのかというのは、今までの流れで難しい判断の中でされてきた話なのかと思う。お金も入り空港があるということで、そういうところの判断もあったのではないかと思う。

<外部委員>

このシティプロモーションの話をする前提で、普通ブランディングをしようと思うが、池田市のブランディングは何なのか。どういうフレーズに今なっているか。それほど浸透していないので、少なくとも空港ではないということかと思う。一行で言うと、どういうまちなのか。

逆にブランディングがないのにプロモーションするというのは、あまり聞いたことがないので、何をプロモーションしたいのかが割と宙に浮いた話を続けているようにも聞こえた。

<事務局>

シティプロモーションのアンケート結果で魅力を感じていただいている点は、治安の良さや自然環境、交通の利便性が上位を占めている。その辺りが一番の売りではないかと思っている。そこを推していきたいというのが全体的な流れである。

観光の観点からいうと空港などのことを言っていると思う。全体で言うと、今申し上げたのが大きな柱になってくるのではないかと考えている。

<外部委員>

空港のあるまちといったフレーズは持たれているということか。

<事務局>

シティプロモーション全体でいう大きな柱は、今申し上げたのが私どもの考え方だが、観光でいうと空港は一つの大きなポイントにはなるのではないかと考えている。その切り口をどこで見せるかによって、書き振りが変わってくるのではないかと考えている。

<外部委員>

先ほど部会長がおっしゃった、トップセールスするときのキャッチフレーズが「定住するなら池田シティ」という感じのフレーズになるのかと聞こえる。そうすると、ウォーカブルに20分徒歩圏内で、市民も住民も憩いの場があって高齢者のフレイル対策にもなるとか、安心して子育てできるとか、そちらが最重要なのかなと聞こえた。

<外部委員>

ワーケーションで試しに来てみてそのまま定住とかそういう流れだと思う。

<外部委員>

そこと空港の話は、次元が離れているように聞こえた。

<部会長>

確かにブランディングという目的があり、それによって初めてシティプロモーションは展開するという流れになると思うので、アンケートの中の結果を見ても住宅都市としての優位性、そういった住みやすさや住み続けやすさが市民感覚でも一番重要視されている。ブランディングというのは差別化ということになるので、お隣のそれぞれの市などもそれぞれ住宅都市だと思うが、より優れているようなところとかをデータで示すとか、民間などではランキングなどをとっているのもあると思うが、そういう池田市にとって、より優位性を示すようなものなどを活用して、市民感覚でもこういった都市だということを示さ

れるようなものを何か目標なり目的を持って、戦略としてそれを打ち出していくというようなことをお願いできればいいのではないかとということで議論を聞いていた。

<外部委員>

私は池田市に住んでいないので話が見えなかった。何をプロモートしたいかを決めないとプロモーションできないだろうと思う。

<部会長>

そういう問題提起ということかと思う。

時間の都合でこの内容については終わらせていただきたい。

もう一つ、私の方からどうしても委員の皆様をお願いしたいことがある。この総合計画は、池田市だけの計画というよりも、池田市に住われている方、若しくは企業や団体にとっても目指すべき将来の姿を掲げながら一緒に取り組んでいくという位置付けのものと思う。そういう意味合いではこのシートの「価値を高め発信するまち」の「市民の取組」に、「地域緑化の取組に参加する」、「一人ひとりが、日常生活における環境への負荷の低減」等が書いている。事務局の方でこうして案を掲げていただいているが、まさに市民代表、企業や団体様を代表してこの審議会にご参加いただいている委員の皆様にとって、ご自分が主体のような立場でご覧いただいたときに、池田市として挙げていただいているものに加えて、何かさらにこういう表現あれば一緒になって目標達成に対して頑張っていけるといえると思う。そういうご意見をこの審議会の皆様からいただけるととても有意義ではないかと思う。こういうニュアンスやこういう項目を「市民の取組」に反映してもらったら自分たちも頑張れるという視点で、何かご意見をいただければと思うがいかがか。

<外部委員>

少し確認してよろしいか。「市民の取組」の項目の基本姿勢としては、行政の方から市民に取り組んでくださいとお願いしていることなのか。それとも総合計画策定のプロセスに市民が参加している中で、市民の方からこれをやろうという形の感覚で見ればよいのか。

<部会長>

基本的には共通の目標を掲げて、行政も市民の方も一緒に頑張っていこうというスタンスになる。

<外部委員>

お願いしているわけではなくて、市民が参加する中でやるということか。

<部会長>

そのとおりである。一緒にやっっていこうということになる。

時間の関係もあるが少し大きな大切な問題だと思ったので、ここで問題提起をさせていただいた。委員の皆様からこの件についていかがか。

特に柱の1本目と4本目の中で「市民の取組」が幾つか書いてあると思うが、こういう項目、こういうニュアンス、表現があれば一緒に頑張っていけるというご意見をいただきたい。

<外部委員>

若干個人的な意向にもなるが、(3)「都市活力の維持・活性化」の「市民の取組」で、「市民農園等を通して、実際に農業を体験する」とあるが、私の知っている限りだが、今の市民農園はおそらく60歳以上の方向けだったかと思う。細河周辺に遊休地もあると思うので、特に60歳以上の方に限らず市民農園を増やすことで、「市民の取組」に活動できる人口も増えるのではないか。今も市民農園ではないところで土地を借りて畑をしているが、最近はやりというか求めている方も多いので、土地をもう少しお互いに活用して取組ができるのではないかと思う。

<部会長>

それぞれ個別のお話があるので、それをどう表現していくかは基本的に事務局にお願いしたい。

<事務局>

総合計画では農業を残したいという思いで書いており、これの下の位置付けとして地域計画や地域ビジョンがある。農業体験は福祉の関係で年齢を60歳以上としている。市が農地を貸していることを前面に押し出してはいないが、個人的に農地を貸している方はたくさんいらっしゃる。細河の地域計画を作るときにコンソーシアムの中で、こういう声もあると反映していきたい。

<外部委員>

1本目の施策の柱の(4)における「市民の取組」の3項目目に「本市への愛着と関心を深める」とある。個人的な情緒的な話になるが、愛着を高めるとするのは、市が目標として提示されるものなのかという気がする。

<部会長>

例えばどういう表現であればよいか。

<外部委員>

関心を高めることで結果として愛着は高まるもので、愛着を高めようとするものではないのではないかと思った。

<部会長>

順序があるということか。まずは関心を高めるということか。

<外部委員>

関心を高め参加してもらって、結果として愛着は高まることもあれば、逆に嫌いになっていく人もいます。そこは自由ではないか。

<部会長>

できれば関心を高めて愛着を持ってもらえれば一番いい。

<外部委員>

愛着を持ってないのは、相性がよくないとか相性が合わなかっただけなので、目標としては違う気がする。情緒的な感じで申し訳ない。

<部会長>

おっしゃることはよく理解できる。

問題提起いただいたので事務局のほうで適切な表現をご検討いただければと思う。

他にいかがか。

<外部委員>

4本目の施策の柱の(4)「危機への備え」の充実」のところで先ほどお話ししたことと重なるが、この総合計画の大前提としてのSDGsの理念の、一人も取りこぼさないということがある。「めざす姿」においても、「自分たちのまちを自分たちで守る」、そして「誰一人も取りこぼさない」という意識のもとで、「危機への備え」をした方がいいと思う。「市民の取組」も、なかなか自分の力で防災力が高められない人もいると思うので、一人一人が力を尽くす、弱い立場の人をおもんぱかのように連携する、心だんから声を掛け合うようにするとか、もう少しSDGsの理念を打ち出した上で文章化した方が、フィットするのではないかと思った。

<部会長>

まさに防災の世界では、自助と共助というものもある。

<外部委員>

そのとおりである。今はその自助を打ち出すというのは、10年代の少し古い考え方で、基本的には自助が痩せ細っているのだから、共助を前提にして自助を救っていくという書き方が主流である。そういう思いを持っている都市だと思っているので、そのSDGsの理念から解きほぐして書いていった方がいいのではないかと思う。

<部会長>

今のご意見を踏まえてどう反映するかをご検討いただければと思う。

<外部委員>

4の(1)「道路・公共交通の充実」について、代わりとして何がいいのか思い付かないが、「市民の取組」の三つ目に、「マイカーの利用を控え、積極的に公共交通機関を利用する」とある。おそらく環境配慮というところで、マイカーよりも公共交通機関ということかと思うが、その前段の市の取組の中で、マイカーをなるべく使わずに公共交通機関を使おうという流れはそれほど触れられていないので唐突な感じがした。前回の話し合いの中で、バスなどは路線が減っているようなお話もあった。しかし、マイカーは使うなという印象になってしまう。現状の部分との釣り合いが少し気になった。

<事務局>

ここに書かれていることに関しては、実際利用者が減っているのが公共交通機関が減ってきているというのが大前提になる。維持するためにも公共交通機関を使ってくださいということを掲げているという対応になっている。

<外部委員>

公共交通機関が使える状況なのにマイカーに甘んじるなという、そういう感じということかと思う。無理強いということではなく、なるべく既存の公共交通機関を維持するために、そちらを積極的に使ってくださいというニュアンスということだと思う。

<外部委員>

全体にも感じたことだが、「めざす姿」とあまりリンクしていないところがある。「めざす姿」のところでは、「人と環境にやさしいユニバーサルな道路・交通体系が…便利に結んでおり」と書かれているので、おそらく今後だとシステム的にはMaaSとか、そういった多様なモビリティの組み合わせ方を市民が便利に選択できる社会を目指しているはずなのに、その「市民の取組」の一文が少し古めかしいので、印象として何か後れている感が出てもったいないという印象を受けた。

公共交通機関で公共交通とは何かと言われたときに、皆さんがぱっと思い付く中にタクシーはあまり入っていないと思う。実はタクシーは公共交通の中に位置付けられようとしている。他の自治体では免許返納した高齢者にタクシーチケットを幾ら分か差し上げることで、返納を促すという都市もある。公共交通といったときの市民が受け取るイメージと何か乖離する部分があるかということも危惧した。

全体でみると、1本目の施策の柱における(1)『環境共創』のまちづくりの「市民の取組」が当たり前にやってほしい取組で、それがまだなかなかできていないのは事実だが、もう一段、5年後、10年後を目指した姿にするために何をすべきか、ということも触れてもいいのではないかと思った。全部が全部、今すぐできることだけにとらわれず、この先技術や行政の進化に合わせてこういうこともできるというような、少し夢のある話というか、そういうことも触れられていればいいと感じた。

<部会長>

総合計画なので5年、10年ということで、かなり未来に向けて取り組んでいくということが位置付けられていると思うが、そういう意味合いでは、今すぐ、今までもやってきたことを着実にやるということは大事だが、さらにプラスアルファでそういった未来を意識して未来を感じさせるような表現があったらどうかということかと思う。

一度全体的に見ていただいて今の考え方に基づいて反映できることがあれば、ご検討いただけたらと思う。

やはりスパンとしては長いので、将来を意識するということはとても重要な視点をいただいたと思う。

<外部委員>

どれがということでもないが、市民の方にやっていただけることというのは、基本的にはご本人がやりたいこと、それをやることによって魅力があるとか、メリットがあるとか、何かそういう仕掛けがないとなかなかやってもらえないのではないかと思う。そこは一つの分かれ道かと思うので、自発的にやってもらえるような仕掛けを考えていただきたいと思う。

もう一つは、「市民の取組」が何点か書かれている。行政がする施策に対する評価や検討は当然されると思うが、この「市民の取組」に対する評価といっでは何だが、途中経過とか結果とかそういうことも併せて出す必要があるのではないかと思う。

<部会長>

とても大事なご意見をそれぞれいただいたと思う。この計画が行政だけではなく市民の方、さらには市内には企業や各種団体がいらっしゃると思うが、そういったところも一緒になって、共通の目標を達成するための計画だという位置付けで、ぜひ今のご意見を反映しながら、この「市民の取組」のところを一度見直していただいて、一緒になって取り組めるような形に工夫をお願いできたらと思う。その内容については、また事務局の方でご検討いただいて、最終的にはご提示いただければと思っているのでよろしくお願いしたい。

それでは次の項目にいきたいと思うが、どうしても個別の項目について気になる部分、どうしてもこの場で取り上げておきたいことなどがあれば、皆様からご発言いただきたいと思うがいかがか。

見きれない部分もあるかもしれないが、少し見つかってくるとどんどん出てくるかもしれない。他にも議論したい案件があるので、もしお気付きの点があればご自身の意見も含めて事務局の方にご連絡いただいて、やり取りをお願いできればと思うのでよろしくお願いしたい。

<外部委員>

1個だけよろしいか。

一応ボールだけ投げるが、「市民の取組」も池田市の思いとしてはSDGsの、「まちづくりの進め方」の(2)にあるとおり、みんなで取り組むことという項目なのではないかと思う。

何か市民と決めてしまったかのように読み取られると、誤解を与える項目もあると思う。市民にも色んな主体があり、外部から交流してくれる方も一緒に参画できるものもある。「みんなで取り組むまちづくり」とうたっているので、みんなで取り組むことという視点で項目を見直すと、表現も変わり膨らむものもあると思う。

<部会長>

重要な視点だと思うので、一度そういう視点でご検討をいただければと思う。

(2) 第7次総合計画前期基本計画における「まちづくりの進め方」・「評価に基づく進行管理」・「施策の重点化」(案)

事務局より資料について説明が行われた後、次のように質疑・意見交換が行われた。

<部会長>

とても詳しく丁寧にご説明いただいたので、委員の皆様にとっても理解が進んだと思う。全体としては「まちづくりの進め方」ということで、三つ基本的な方針を示していただいて、いわゆる横串、全ての施策について意識すべき進め方ということ、精神というか方針を三つ挙げていただいている。「SDGsの推進」「みんなで取り組むまちづくり」「持続可能な都市経営」、この3点を重視しながら、各施策について検討する場合には常にこの精神に立ち返って進めていけたらということ、挙げていただいている。

それから二つ目、PDCAを回していくということ、「評価に基づく進行管理」ということだが、これもみんなの計画だということ、行政内部での評価と市民による評価、我々のような第三者機関での評価ということ、3本柱立てを挙げていただいて評価をしていくということである。

それから最終的に「施策の重点化」ということで、時代の変化が激しい中で本当に大切なことに即応していくという観点で、本当に必要なことに集中して取り組んでいく必要があるということなので、全体として取り組んでいくのは一つの計画だが、その中で状況によって選択や集中を進めていくということを書いていただけたかと思う。しかもある程度スパンを短く切って、即応性を確保していこうということではないかと思う。

これについては計画全体にとって大切な方針、それから進捗管理、重点化について方針を挙げていただいているので、委員の皆様方から一言ずつご意見をいただければと思う。

<外部委員>

1番目について二点ある。「まちづくりの進め方」の中に「行政」「市民」「事業者」とあるが、NPOなどのソーシャルセクターがどこにも入らない感じを持っている。事業者ではあるが、「事業者…の社会経済活動の中で」という文言もあるので、少し違うという気がする。ここはご検討いただきたい。

それと同じく1枚目の「まちづくりの進め方」と右ページも含めて、この会議の中でも以前に出た関係人口、市民ではない方がまちづくりに参加するということが今後重要視する方針かと理解しているが、関係人口に関しては記載がないとされていて、市内での連携を深めるというのはあるが、今見つからなかったのでもし記載がないのであれば、関係人口、市外の人でも連携してというところを一文でも入れることをご検討いただければと思う。

<部会長>

これはいかがか。例えばNPOのような団体などは、この中でこういった表現のところに位置付けているとか、それから関係人口の方への配慮というか、対象として考えるかどうかという観点でいくと、それについては事務局の方でご意見とかいかがか。

<事務局>

基本的には考え方の中で、みんなまち条例があるのでその中の市民の中に全てのものが入っているという感じである。その中に市民はどういうものかということをごどこかでまた記載させていただきたいと思っている。

<外部委員>

市民とはこういうものを含むという話か。

<事務局>

そのとおりである。

<部会長>

いわゆるセクターに分けて市民セクターという観点でいくと、市民の方が主体になって取り組んでいるような団体なども入ってくるということだと思う。

<外部委員>

これを図にしたときに、「行政」と「市民」と「事業者」の連携という図なのか、そこにソーシャルセクターというものが入るかというのは、考え方としても大きく違うので、市民という言葉の中に含まれているとしても、ソーシャルセクターの今後の位置付けに関するお考えを強調するのであれば、ここにNPOだけではないソーシャルセクター的な何か適したワードがあれば分かりやすいかと思う。

<事務局>

「価値を高め発信するまち」に関する主要意見等と対応方針案の1ページの最下段で、みんなで作るまちの基本条例で定義している「市民」というところの記載が、対応方針案に記載している。

そこを読み上げると、「市内に居住する者、市内で働く者及び学ぶ者並びに市内に事業所を有する法人その他の団体」ということで、「市民」一つについて全てを包含している。こちらの主要意見等の内容についての左の方に、「市民の取組」のところの「市民」というところでの答えとなっている。

「市民の取組」のところについては、先ほど委員から新たなご提案をいただいたところなのでそちらも踏まえて今後検討するが、委員からご指摘いただいたこちらの表現については、市民や事業者というところで事業者だけ特出ししているような形になってくると、こちらの定義ともまた違ってくる。そうすると委員のルーツであるNPO法人とか、そういったところをわざわざ特出ししなくていいのかという議論につながってくるので、今のようなご指摘の点を踏まえて全てのステークホルダーについて書き切るのか、それともそういった部分を含めた上で読み取れるものにするのかは検討したい。

<事務局>

その場合は「市民」を使わずに「住民」として、あとは色んなNPOなどを使っていくということなのか。

<外部委員>

私もあまり多く見ていないが、市民は「市民」と書いて、それで住民という理解、在住・在勤者という理解で読ませるものが多いような気がする。

<事務局>

みんなち条例では「市民」というのは全て入ってしまっている。

<外部委員>

事業者を別に出す場合「事業者・市民」と書いてあれば、事業者でなければいわゆる法人格を持たない団体、在住・在勤者ということになる。ではソーシャルセクター、NPOや各種団体が事業者なのかといわれると、もちろん事業者ではあるのだが、経済活動を行う事業者とはまた少し違うと思う。

<事務局>

少し調整して色んな団体が入るよう検討したい。

<外部委員>

どこまで出すかは難しいとは思いますがご検討いただきたい。

<部会長>

「市民」と「住民」というのは古くから議論があって、「住民」というのはベースなのだが、「市民」というのが何らかの積極的なアプローチ・活動をするという意味合いで、近代市民という概念から広がってきているということはあると思うので、積極的に何か取り組

もうとするときには「市民」という言葉は、とても良い言葉だと思うので、上手に使っていただければと思う。

<外部委員>

関係人口などはいかがか。

<事務局>

「まちづくりの進め方」の資料の1枚目の「みんなで取り組むまちづくり」のところの一つ目の項目として、「まちづくり活動の支援とつながりづくり」で、基本構想のところではいわゆる交流人口と活動人口と関係人口、全て包含した形で私どものオリジナルの定義で「まちづくり人口」というような形で書かせていただいている。

コミュニティーデザイナーの方などは、いわゆるファンを作って一言物申すだけではなく、積極的に関わっていただける方にこそ触れていただきたい対象であるというご意見を頂戴している。このまちづくり活動という部分は様々な形があって、3段落目においてその支援をしていくと書かせていただいている。

今委員ご指摘の「まちづくり人口」を私どもは特に注目して、大事にしたいというくだりをこちらで読み取れるといえ、読み取れるかもしれないが、そこがより読みやすい表現がないものかは検討したい。趣旨としてはこちらに入っているところをご理解していただきたい。

<外部委員>

趣旨はよく理解できたが、ぱっと見たときにこの文言だけだと入っているのか入っていないのかよく分からないので、ぜひご検討いただきたい。

<外部委員>

確認で恐縮なのだが、この「めざすまちの将来像」というかぎ括弧くくられたフレーズが多く出てきているが、そもそも「めざすまちの将来像」は何だったかとなってしまった。最初の回に配られた、基本構想の「めざすまちの将来像」にぶら下がる具体的な実施方法で作られた「まちづくりの進め方」という理解でよろしいか。

この「めざすまちの将来像」自体も、最初の回に色んなご意見が出て、修正や改善をしていくという話だったかと思うが、新しいのが出ていないと思っている。これを話し合い新しいのを見る機会が今後あるのかどうかも含めて、流れが分かっていないので教えていただきたい。

<事務局>

ご指摘いただいたとおり、全体会の中で今後基本計画の各シートの中身によって、フィードバックしないといけない案件が出てこようかと思うと説明をさせていただいた。

そのフィードバックの結果とその結果として、「めざすまちの将来像」を目指すべきなのかどうかというところは、今後もちろんお示ししたい。

そちらの各シートについては、1から4本目までの各柱の施策、さらに細かい事業というところでは、その集合体として逆に上にあげていく姿になるというところでお示ししている。それらの施策や事業を進めていくにあたって、全てを貫く横串として意識しないといけないこと、我々が回すために持っておかないといけないシステムチックなところについて書かせていただいている。各シートの見直し状況いかにによって左右されるものではないと思っているが、全体的な見方の中で、例えばSDGsを意識されているのかとかいうお話や、本日も色々総体的な部分で見直すべきようなご指摘の点については、この文章やテキストを表すだけのテクニカルな話ではなく、行政全体の姿勢に言及いただいているところもあろうかと思っている。そういった部分は、こちら側にも入ってくる可能性があると思っており、その部分はきっちりと反映した上でお示しするという流れになる。

<外部委員>

理解した。

今までの意見の方針案の中で先ほどもご発言があったが、柱全体とか横串という表現で、そちらに反映させるという表現になっていたものが、具体的にどこに落ち着くかということになると、ボトムアップで意見を集約させて改善された「めざすまちの将来像」に出てくる。そのより具体的な手法は今検討している資料という認識でよろしいか。

<事務局>

そのとおりである。

<外部委員>

一義的にはシートの議論をする前に、まずこれを共通理解として議論しておいた方がよかったということか。

<事務局>

順番は前後かと思っている。こちらのほうが行政評価や内部的にどのように留意し、いわゆるPDCAのスパイラルのような形で、サービスとしての価値・質を高めていくかということになるかと思っている。こちらを自治総合部会でご審議いただく中で、大きく変わるためにお示しできなかったというわけではないが、こちらがまだ固まりきれていなくても、各事業や施策の目指すべき姿を進捗として管理していけるのかという側面が、今ご覧いただいているシートかと思っています、それはそれで別に進めていきたい。

ただ、そちらは今委員ご指摘のように、全く知らないという状態では進めることができないというところで、この段階でお示しさせていただいていたというのが今の流れとなっている。

<外部委員>

おそらく各シートの中身との整合を見るには、少なくともこの1枚目の「誰一人取り残さない」とか「みんなで取り組む」というのは、キーコンセプトだったと思う。

これを踏まえてもう一度各シートを見ると、たくさん疑問が湧く部分もあるが、今さら議論をしても仕方がない部分もあるので、やはり精査していただかないとかみ合わない部分があると思う。先ほどの「市民」という言葉の使い方もご疑念が出ていたが、やはり当然齟齬が出ていると思う。順番ややり方はあると思うが、なぜこういう順番なのかという説明が今日必要だったと思う。

<部会長>

委員からお話いただいたことも含めて、基本的な方針はもう一度事務局でも踏まえながら、個別のことについても検討した内容、齟齬がないかどうかというチェックをお願いして、次回以降にそのチェックの確認をどうしたかというご報告いただければと思う。

今日は全部チェックしきれないと思うので、そういう形で事務局に作業をお願いしたい。

<外部委員>

1枚目の「まちづくりの進め方」の(2)「みんなで取り組むまちづくり」の最初のリード文で、おそらくまちづくりをなぜみんなで取り組まないといけないのかという説明になろうかと思う。その中で、2行目から3行目にかけて、「人口減少や少子高齢化の進行」が「人々や団体同士のつながりの希薄化につながっている」と、結構ピンポイントで限定して書かれているところが少し気になった。

池田市のまち中において、この辺の因果関係が何か証明されたということなのか。

<事務局>

「みんなで取り組むまちづくり」というところでは、そのSDGsの中で、パートナーシップというところが国から示されているように端的なところで言うと、少子高齢化に伴う税収減や公務員のなり手の減少というようなところから、行政としての力が落ちていくというような中でも行政需要に対して対応していきなさいという流れがあり、その中で結局私どもだけでできることは限られているところから、皆様とともにしていけないといけないというような文脈は持たせてはいただいているところではある。

<外部委員>

(1)「SDGsの推進」から来ているので、どちらかと言うと人口や人口分布の問題だけではなく、現代社会における課題が非常に多様化して複雑化していることが一番の要因ではないかと思っている。だからSDGsが出てきたのだと捉えていた。だからみんなでまちづくりをやっていかなければ、このSDGsの推進にはつながらないのだという、その強い意志のようなところがもう少し文章に入ってくるといいのかと感じた。

<事務局>

SDGsの効果というところで言うと、様々な社会課題が漫然と捉えられている。例えば人口減少というような、今おっしゃっていただいたところについては、別に1、2年前にいきなり生じたことではなく、もう20年、30年前から想像されていたと思う。その

人口減少という、この4文字熟語だけが走っていて、何も対策を取らずここ2年前後に現れて慌てるというようなところであり、この中で将来的な見据え方をした上で、バックキャストイングしていかないといけないというこの世界の共通言語としてのSDGsを公式化していただいたところに大きな意義があると思っている。

そういった部分によると、今委員がおっしゃるようにSDGsが多様な課題を明らかにし、同じ方向性を向いた形で色々な方々と一緒に向かえるポテンシャルを持っている、その可能性として大きな武器になるのがSDGsだと認識している。そういった部分を(1)の方で書かせていただくのか、(1)からのつながりの中で(2)の頭出しの方で書かせていただくのかについては、少し検討させていただければと思う。

<部会長>

委員がおっしゃっているのは、結局社会の課題が複雑・多様化している中で遠心力が働いているのだと思う。求心力より遠心力が働いているが、一方で人口減少や少子高齢化という観点でいくと、行政も色々な団体も住民も単独では色々な問題を解決しきれないような背景もあるのではないかなと思う。

そうすると、やはり人口減少や少子高齢化というのは体験しながら、それぞれが厳しい状況に置かれる中で一緒になって多様な地域課題、複雑化する地域課題に力を合わせて取り組まないといけないという文脈になるのではないかなと思う。確かに人口減少・少子高齢化の進行とこの希薄化というのは直接つながりにくいところではあると思うので、少し言葉などを補足していただいて、厳しい状況の中で力を合わせながら地域課題を解決していくような、そのような表現にさせていただくのもいいかなと思うがどうだろうか。

<事務局>

委員のおっしゃるとおり、この希薄化は人口減少や少子高齢化だけではなく、生活様式の変化など色々あるので、それも踏まえて少し変更させていただく。

<部会長>

ご返答いただけたと思う。よろしくお願ひしたい。

<外部委員>

最初に事務局から説明があり、部会長からも説明があったが、「まちづくりの進め方」の中で全ての施策において、(1)から(3)の三つの視点をもってまちづくりを推進していくという記述があった。その最後に施策を推進するにあたっては全部が全部、全力ではあたれない。重点化して一部を厚く、当然その反対に薄いところもできてくると考えざるをえない。そうすると、薄くなった部分は実際その施策が実現できるのか、そのように取ってしまうがその辺はどうなのか。

<部会長>

重点化してしまうと希薄化するところが出てくるというご懸念だが、これについてはいかがか。

<事務局>

今の委員のご質問は、重点化をしてしまうといけないということによろしいか。

<外部委員>

いけないということではない。重点化するところはあってもいいが、結局その反対に手立てが薄くなる部分が出てしまう。これはこの手立てで十分にできるという裏付けがあれば、別にそれは問題ないと思うが、薄くされたがために、それが実現できないことはないか。

<部会長>

やらないところも出てくるということか。

<外部委員>

中身とその重点度のバランスが取れているかどうかというのは確認できないのではないか。

<事務局>

前は重点施策として五つほど挙げていたが、今回の総合計画に関しては挙げないという方向で、より色んな対応した重点施策、五つではなくて、六つ、七つ、八つになるかもしれないが、時代に合ったものをやっていこうとしているので、第6次より第7次の方がより幅広く補えるような形になるのではないかと考えている。

重点化も毎年度見ていくということで、市でいえば毎年の施政方針の中で重点施策として何個か挙げているが、そういう形で反映していくと考えているので、第6次総合計画のような、五つか六つを出していくという形ではないということを考えている。

<部会長>

少しかみ合っていないかもしれないが、おそらく委員がおっしゃっているのは、重点化して頑張らないといけないことは先にやってもらうというのはとても重要なことだが、せっかく計画などに位置付けたのに結果的に優先順位が下がって、最後計画が終わるまでに位置付けられたものがないようなものも出てきてしまうのではないかと心配されているのだと思う。

<事務局>

全ての取組の中で、より重点的なものを挙げていくということで考えているので、基本的には全て事務事業の中でやっていく。

<部会長>

やらないものはないのか。

<事務局>

そのやらないというものに対してどういう対応をしたらいいかは、逆に教えていただければありがたい。

<部会長>

重点化していくとどうしても優先順位が下がるものもあるだろう。その下がったものについて、どう扱っていくのかということだと思う。重点化されるのは理解されていると思うが、やらないものが出てくるのではないかということで、それはどうするのかということだと思う。

<事務局>

そういう場合はどう扱っていいかということをお示しいただき、逆にご教授いただければありがたい。

<外部委員>

具体的に言えば、この施策をするのに人が三人要するという設定があった場合に、重点課題ではないのでということで、二人しか人材が張り付かなかった場合、そうしたらこれは基本的にできないし完成しない。三人分を二人でやれということになるので、これは難しいということになってしまう。そうすると、こうして色々な施策なり方針を検討して挙げた部分の作業が、何か無駄になると言う失礼だが意味がなくなるような気がする。色々な施策を上げた中である程度ブラッシュアップして、そぎ落としていくことも必要なのかと思う。それは最後の作業になるかもしれないが。

<部会長>

ご理解いただけただか。

<事務局>

基本的に全ての事業を事務事業として出させていただいた中で、効果がないものなどは消していくということになる。基本は全ての事業を対象とさせてもらって、それを評価していくということになるので、どこかに紐づけていく形にさせていただく予定なので、毎年のブラッシュアップはもちろんさせていただく予定である。

<部会長>

計画の中に位置付けても、最終的に5年、10年たってもやらないものも出てくるということか。

<事務局>

事業単位においてはこちらに書かせていただいているとおり、限られた財源・資源の中でさせていただくので、そこでめりはりをつけないと如何ともし難い。

今ご審議いただいているのが基本構想で、さらに基本計画というのは施策レベルというところになる。非常に大きなところとなると、そのアプローチとしての事業は様々なものが考えられる。例えば盛大に資源があれば、大量の物件費や人件費を放り込み、盛大に委託料も投じれば、非常に豪華なものができるが、どこかで我慢しながら自前でやっていく、若しくは何らかの工夫を重ねることによって、できるだけ事業費を抑えていくという工夫の中で、何とか施策の達成に向けてやっていくのかと思っている。

我々行政の中でよくKPIという、キーパフォーマンスインジケータというものが用いられる。KGIというのがおそらくゴールという最終にたどり着いたというお話になると、そこには前期基本計画でたどり着いていないが、あくまでも中間地点として、ここまで目指すべきという努力目標として設定して、それぞれ事業展開、施策展開していく中で、前期基本計画で最終的に振り返ってみれば、全然達成できなかったというのは生じる可能性はもちろん出てくる。このようなものを作るにあたって、できないというつもりで書くことは一切ないが、振り返ってみると何らかの理由により達成できなかったということがあるかもしれない。

ただ、そこはこの「まちづくりの進め方」の中で、振り返りと行政評価というところで、なぜできなかったのかという振り返り、分析、反省を踏まえながら、次の後期につなげていきたいというところで、そのフォローアップは必ずさせていただくという姿勢がこちらにも出てくるのかと思っているので、そういった、いわゆる限られた資源でできないところがあるかもしれないので、今からその部分についてそぎ落としていこうということはせず、できるかぎり高い志の中で作っていきたいという思いはある。

ただ私どもは俯瞰的に様々な横串のところさせていただいているので、各事業課からすると明らかにこれはできないというところは、このシートの作成にあたって意見をいただきながら、そのところは取捨選択させていただいているので、そもそも可能性がないようなものは出していないという自負はある。

<部会長>

よろしいか。

<外部委員>

理解した。

<部会長>

施策レベルで総合計画を構成していただいているので、事務事業という感じになると完全に白黒がつくような形になると思うが、そういう意味合いでは事務事業の中で評価をリンクさせて調整し重点化していくことはできると思う。即応性で作っていただいていると

ということで、委員のご懸念もある程度調整の中で対応できるかと思うので、よろしくお願いいたします。

予定の時間を結構過ぎてしまって大変恐縮なのだが、最後にどうしても何かおっしゃりたいご意見があればお願いしたい。

<外部委員>

「まちづくりの進め方」の(1)「SDGsの推進」の冒頭部分について、「SDGsが2030年までの達成をめざして掲げられている国際目標であることを踏まえて」の部分だが、「国際目標である」というところが、私の感じ方の問題かもしれないが、国際的に色々な自治体などでやっているから池田市でもやるというような感じに捉えてしまう。文脈的に必要なのは、この「SDGsが2030年までの達成をめざして掲げられている」というところなので、「国際目標である」というところはなくてもよいのではないかと思った。

<部会長>

これはいかがか。

<事務局>

「国際目標である」というところを明確にすることで、よく言われるSDGsを国レベルがやって、他人事のように捉えられかねないという危惧があるというのは、おっしゃるとおりで、その中でSDGsの物の本によると、ローカライズして自分事に変えていきなさいというところがある。我が市がなぜそれをしていかないといけないのかというところが読み取れるような形を検討させていただきたいと思う。

<外部委員>

先ほどの重点化と優先順位の話をついて思ったことだが、各施策は事務事業として毎年の予算で何かをやると思う。ただ全体を見たときに、優先順位ではないが、先にやることと後にやること、投資の順番としてこちらを先にやってからこちらをやらないと投資効率が悪いとか、そのプロセス管理のようなものがあってしかるべきだが、計画レベルであまりそういうことを見たことがない。

例えば、住宅の施策の方を最初の2年なら2年、予算を多めにつけて、それから観光をやるとかというようなそういう方針がないと単年度会計という中でその限界を超えていけないのではないかと思う。お金、リソースが少ないのはみんながよく分かっていることなので、投資効率をどう高めるかというところで、何かそういうところもあっていいのかなという感想を持った。

<部会長>

これも重要な視点だが、いかがか。

<事務局>

自治総合部会においても、この「優先」という言い方が正しいのかというご議論をいただいている。いわゆる「先行」という形で優先順位をつけてしまうと、結局は優先の反対は切り捨てという話になってしまう。例えば、「公共施設等」と言われる「等」の部分はインフラ施設が入る。インフラ施設、例えば道路や水道というようなところについては、これはこちらを切り捨ててしまってもというわけにはいかないもので、物によってやはり扱いが違ふところを意識した形で優先を使うのではなく、そういったところの書き分け方も意識しようというご指摘をいただいた。

そういった部分については表した上で、いわゆる先行投資をすべきなのかどうかということについては検討していきたい。事業単位でくくると進捗の管理がなかなか見えづらいところがある。施策レベルでくくると、重複した事業が生じているかもしれないということも踏まえ、今の財政状況も鑑みた上で今年これをやるということを示させていただくのが、この重点化の一つの見方なのかと思っている。

<外部委員>

全ての施策をタスクとして、10年後までのガントチャートを作るとその施策の前後関係がよく分かる。そしてリソースを配分する。

<事務局>

おっしゃっていることはすごく分かる。

<外部委員>

ご検討いただくようお願いしたい。

<外部委員>

今の重点化・優先の議論と、先ほど委員がおっしゃっていた指摘のポイントを踏まえると、(1)(2)(3)の順番を(1)(3)(2)で書かれた方が伝えようとしていることが伝わるのではないかと聞こえた。

(1)のSDGsの理念を実現したいというのが池田市にあって、その次に都市を経営する中で限られた資源を有効に使って効率的にマネジメントする必要がある。だからこそみんなの力を合わせてまちづくりをしていきたいという順番で並べられた方が、今ご説明いただいたことはもう少し理解しやすいのではないかと思いますし、委員がおっしゃった、少し唐突に感じる部分も和らぐと思う。

<部会長>

ご検討いただければと思う。

最後になるが、岡田委員と石田委員から各議論を踏まえてご意見やご感想があれば伺いたい。

<岡田委員>

総合計画を考えていただいているが、まちづくりに完成はないというイメージがあるので、10年後に完成するまちという考え方ではなかなか作っていけないと思う。事業についても、定めた10年後の目標に向かって進めるために、600ないしの事業がずっと進んでいる。その600の事業の中に隙間があると言われると、できていないところがあるのかもしれないが、その隙間はまた10年の間に市民の声が何か出てきて、そこが新たな事業として変わっていくという形で、先ほどからずっと言われているとおり隙間なく10年後に80%進むか60%進むか分からないが、ゼロのところはないという考えで作っているのかなと思っている。

<石田委員>

毎回部会でも若干指摘を受けているが、横串の部分「まちづくりの進め方」、誰も取り残さないSDGs、「みんなで取り組むまちづくり」、この辺の各シートの整合性、ここはやはりご指摘のとおりだと思うので、改善するような表現でいま一度少しチェックをさせていただきたいと思う。

印象に残った意見というか感想になるが、私も池田市民なのだが、長く住んでいると見慣れてしまうというか、委員がおっしゃっていたかと思うが、見慣れた風景は意識も薄れ、自分のまちというのは自分なりに評価が低くなってしまいう傾向がある。同じ風景でも違う角度で撮れば、えっと思うような風景もいっぱいあると思うので、再発見できるような取組、これはおもしろい考え方だと思った。

あとプロモーション、何をプロモーションするかという話で、池田市代々皆さんご承知のとおりかと思うが、例えば極端な話、池田の駅前に「信号を守るまち」だとか「ラーメンのまち」とか、割とそのときどきの首長が色々な発信をされている。それはそれで色々な発信することで、色々な宣伝にはなったと思うが、確かにそういうレベルの話ではなかったと思うが、その辺の何をプロモーションするのかというのは、まずあってしかるべきだろうと思った。

もう一つ、ホームページなどの広報の在り方の話があったが、やはり探しに行かないといけない広報ではなく見たいものが勝手に届くような、それは十分大事なことだと思う。それは今後研究していきたいと思う。

あと少し細かい部分だが、各シートで部会長から自分たちの計画だということで「市民の取組」という話があったが、細かい話で申し訳ないが、この「市民の取組」という表現が若干批判を受けるかという思いがあったが、少し良いアドバイスをいただいたので、それはありがたかった。

<部会長>

今日いただいたご意見については、続きあと1回あるので、そのときまでに事務局にご検討いただいて、さらに議論を進められたらと思うのでよろしくお願いしたい。

それでは事務局にお返ししたい。

3. 閉 会

事務局により、次のように事務連絡が行われた。

<事務局>

前回、岡田委員の提案があったとおり、部会1回追加ということで皆様からのご承認いただいているので、なるべく早い時期に日程を組みたい。出席の確認をさせていただいているが、提出いただいていない方があれば明日までにご提出お願いしたい。

次回の案件は、これまでに頂戴したご意見等を踏まえて調整した施策シートをお示した上で、ご審議いただきたいと考えている。

以上をもって、池田市総合計画審議会、第3回地域生活環境・まちづくり部会を終了させていただく。

以上